

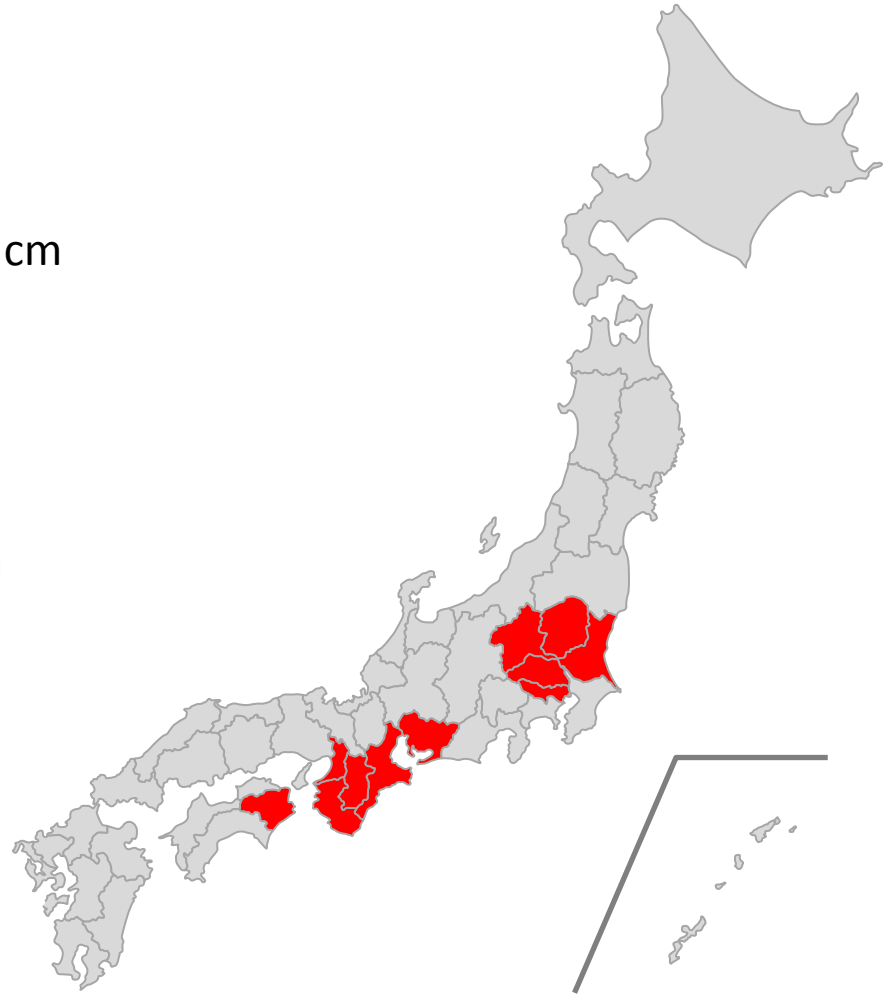
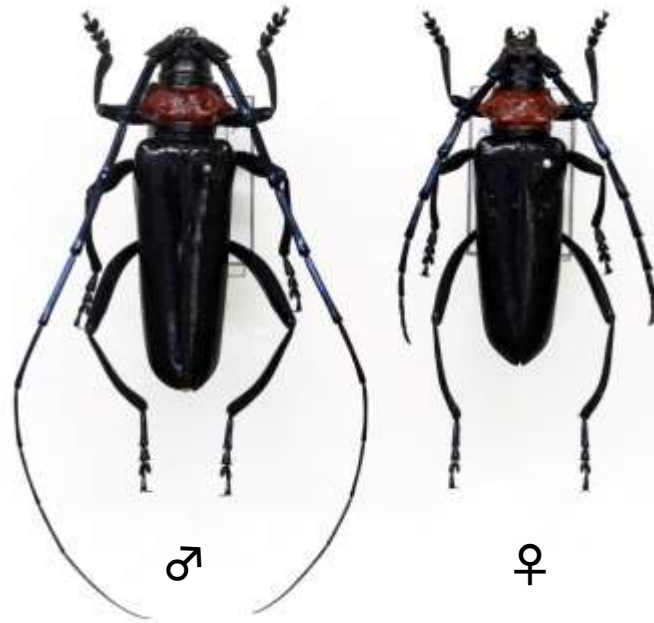
2020/11/26 明石公園
外来生物対策セミナー「クビアカツヤカミキリ対策の技術講習会」

クビアカツヤカミキリ侵入樹木への対策と効果



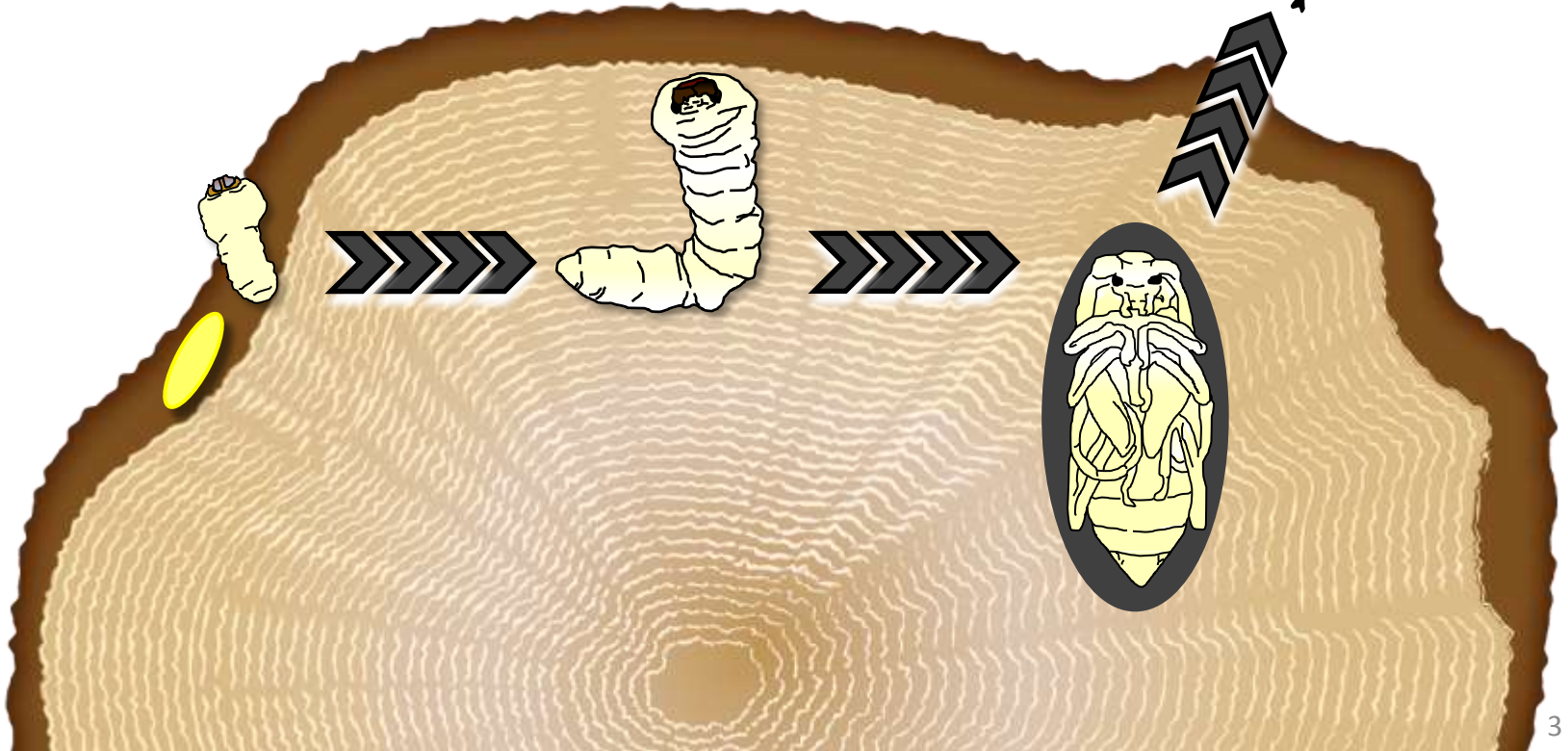
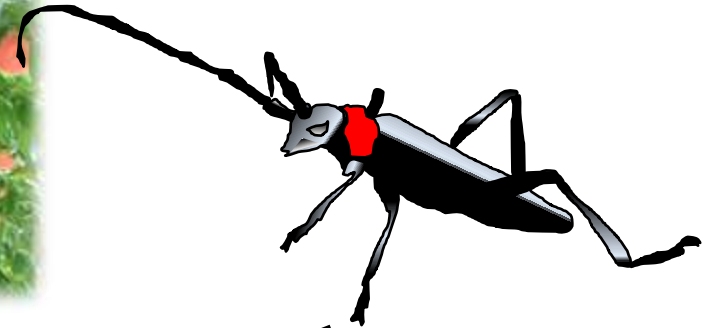
国立研究開発法人森林研究・整備機構
森林総合研究所 砂村栄力

クビアカツヤカミキリ *Aromia bungii*

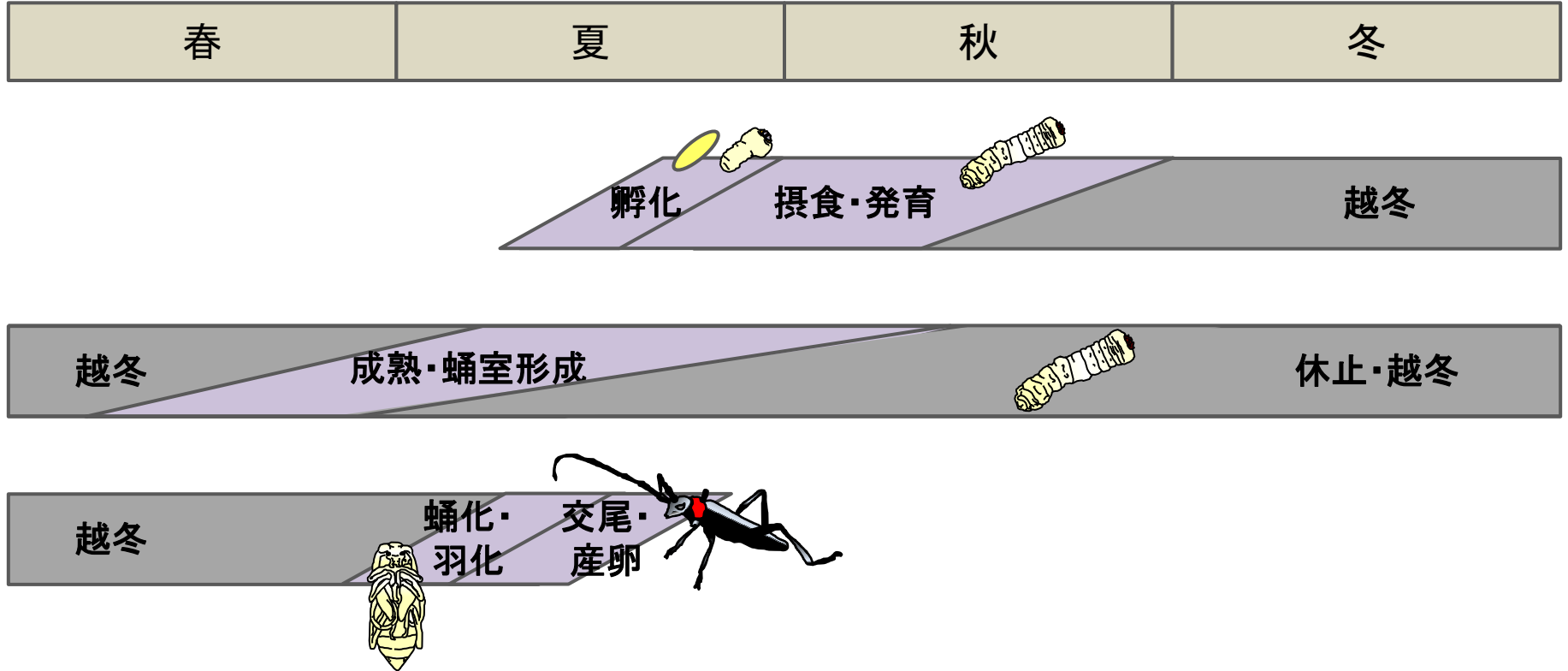


- ・原産地：ベトナム、中国、モンゴル、朝鮮半島、ロシア東部
- ・2011年以降ドイツ、イタリア、日本に侵入
- ・幼虫がサクラやモモ、ウメ等のバラ科樹木に穿孔し枯死させる

クビアカの生活史



クビアカの生活史



- ・2年1化となる個体が多いとされる
- ・一生の大部分を樹木内で幼虫として過ごす
- ・冬以外にも不活発な時期がある

幼虫によるバラ科樹木の食害



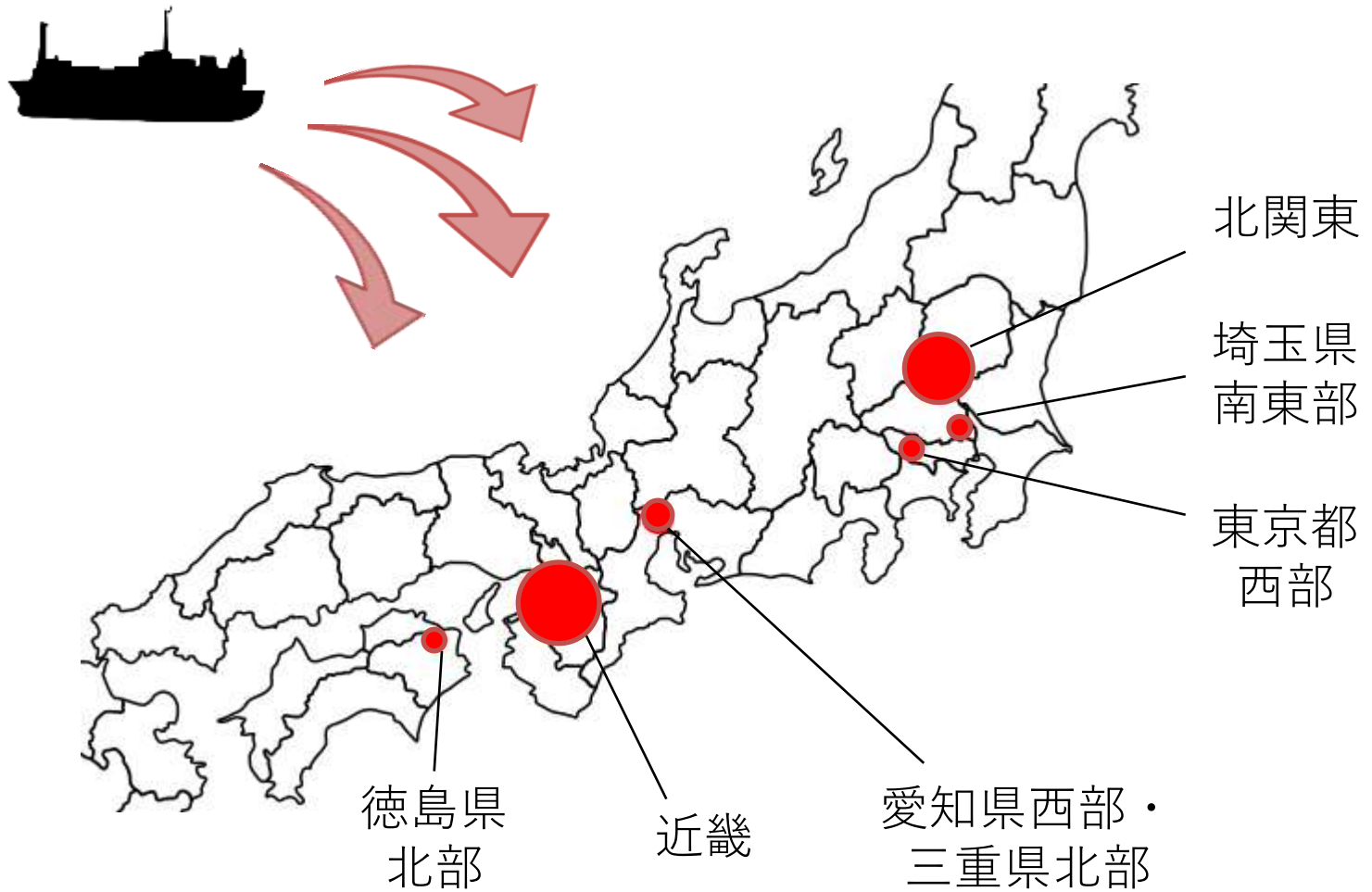
バラ科樹木(とくにサクラ亜科)に寄生
サクラ／モモ／ウメ／ハナモモ等

幼虫によるバラ科樹木の食害

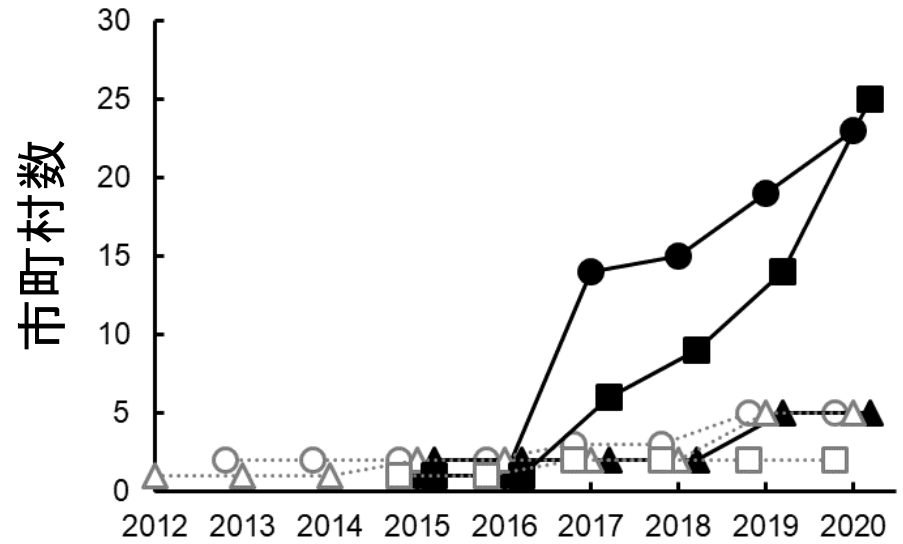
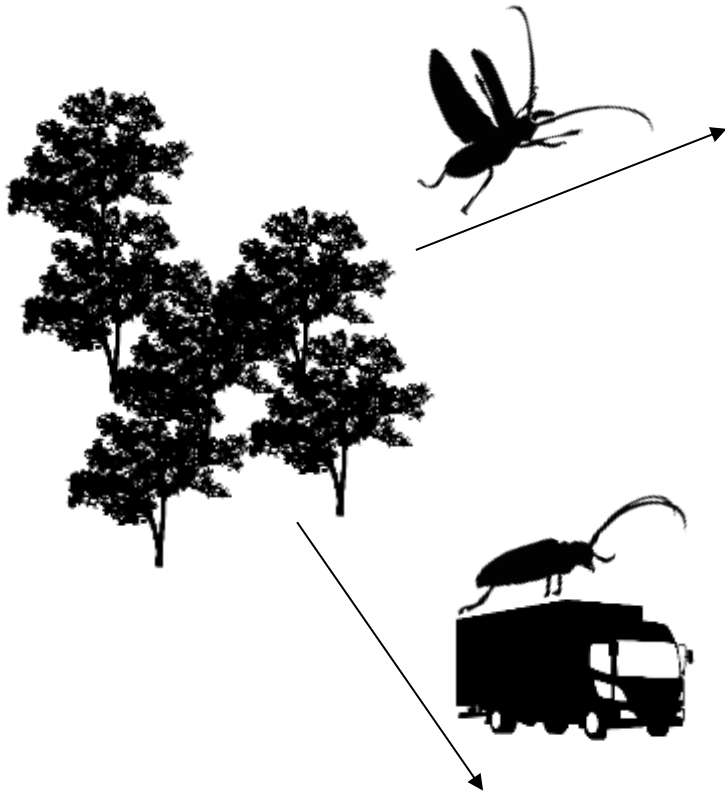


市街地のサクラや果樹園のモモ等で
枯死被害

国内の侵入地域



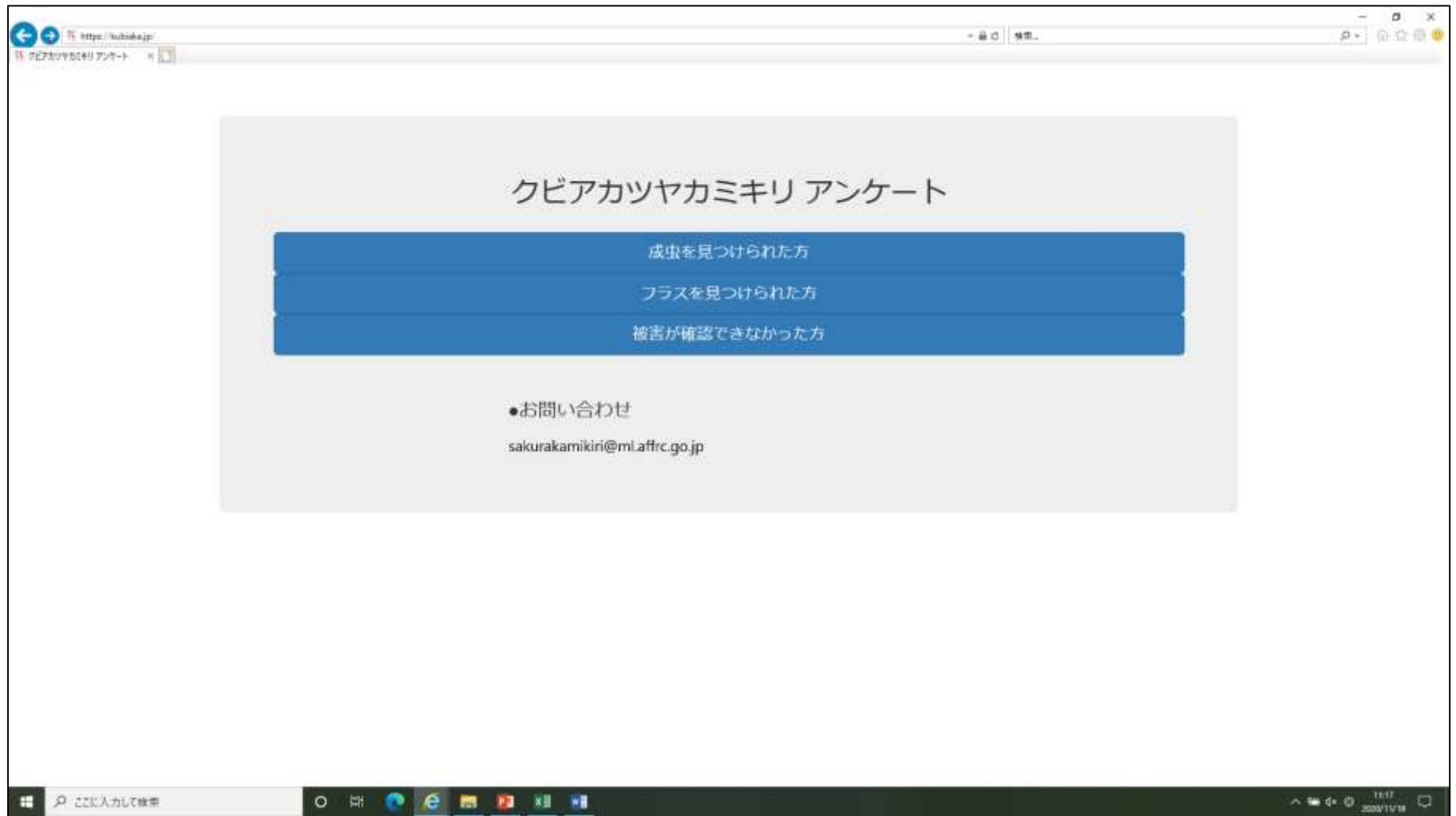
各地域における分布拡大



- 北関東
- 埼玉県南東部
- ▲ 東京都西部
- △ 愛知県西部・三重県北部
- 近畿
- 徳島県北部

オンラインマッピングシステム

<https://kubiaka.jp/>



クビアカの防除手段

化学的防除

- ・散布剤
- ・エアゾール剤
(食入孔注入)
- ・樹幹注入剤

物理的防除

- ・ネット被覆
- ・伐倒
- ・手捕り

生物的防除

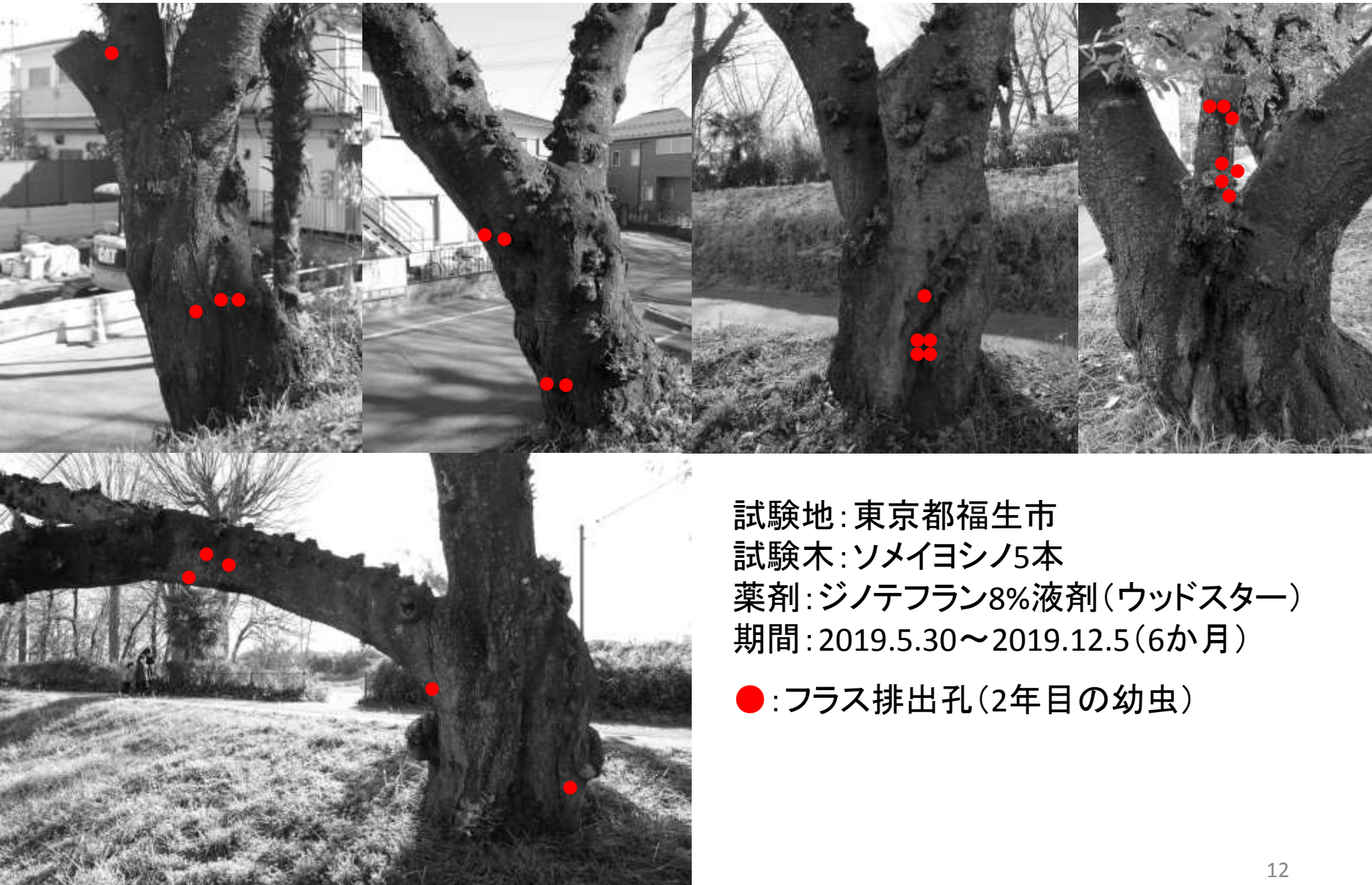
- ・センチウ剤
- ・糸状菌剤

樹幹注入剤



- ・地際部の幹に薬液を注入
- ・樹木自身の水の運搬によって薬剤が樹木全体にいきわたる

実地での使用事例



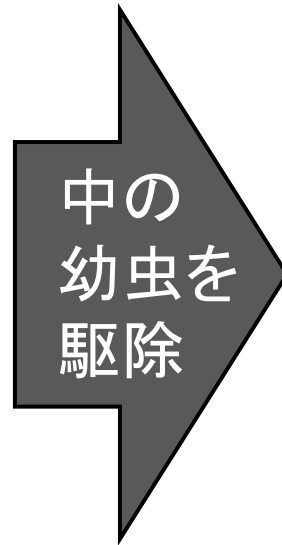
試験地：東京都福生市
試験木：ソメイヨシノ5本
薬剤：ジノテフラン8%液剤(ウッドスター)
期間：2019.5.30～2019.12.5(6か月)

●：フラス排出孔(2年目の幼虫)

実地での使用事例

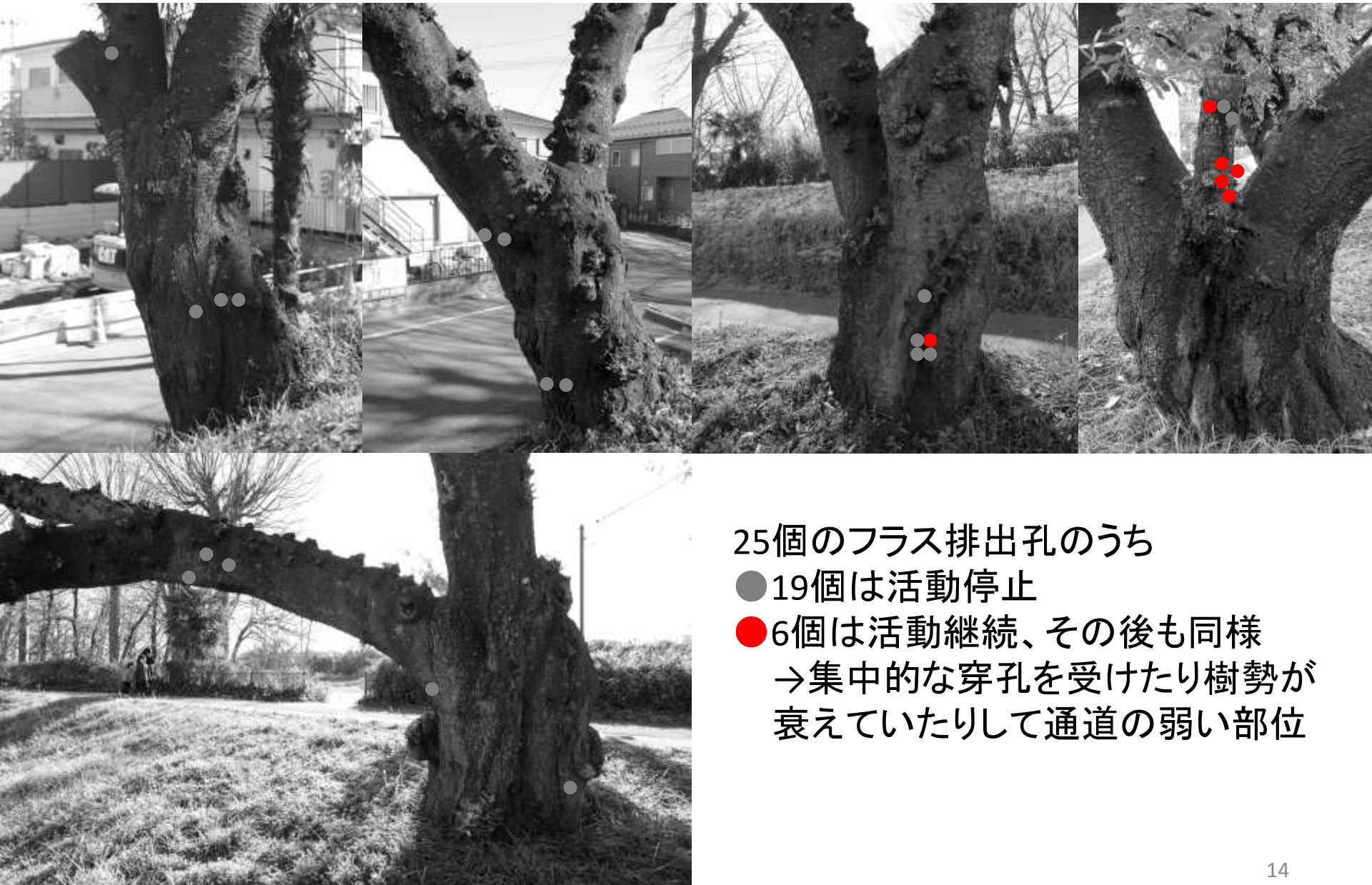


注入日：大量のフラス
注入直後にフラスを掃除



新たなフラス排出が起こらない

結果：処理3週間後

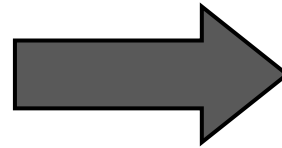


25個のフラス排出孔のうち

● 19個は活動停止

● 6個は活動継続、その後も同様
→集中的な穿孔を受けたり樹勢が衰えていたりして通道の弱い部位

分枝の切除



効果の低かった分枝：
樹勢の衰えや集中的な穿孔がある部位では
水の運搬がうまくいかず薬剤が届きにくかったと考えられる

クビアカの防除手段



化学的

- ・散水
- ・エアゾ
- (食入子
- ・樹幹注



物理的防除

- ・ネット被覆
- ・伐倒
- ・手捕り

生物

- ・セ
- ・



クビアカの防除手段



化学的防除

・散布剤
・ゾール剤
・（孔注入）
・幹注入剤



生物的防除

・センチウ剤
・糸状菌剤
（・在来天敵）

カミキリムシの天敵



寄生蜂



捕食性の
コウチュウ目・
チョウ目幼虫



まとめと課題



分布拡大の予防

- ・分布は拡大を続けている
- ・早期発見、早期防除が大事
- 既存の被害地の周辺での警戒体制の整備
(オンラインマッピングの活用によるパトロール等)

定着個体群の防除

- ・防除ツールは充実してきている
- ・ただし単体では限界あり
- 複数のツールを組み合わせた防除体系・マニュアル整備
- 新規防除ツールの開発

